

洛和会音羽病院は、京都市山科区に位置する病床数約 550 の地域中核病院です。地域の急性期医療の中心的役割を担っており、2015 年には地域医療支援病院および京都府災害拠点病院に認定されました。

当院呼吸器内科は、長坂行雄呼吸器センター長と土谷美知子部長のもと、呼吸器外科と協力しながら年間約 700 人の入院および一日約 60 人の外来診療を行っています。症例は肺癌や、気管支喘息・COPD、間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群など幅広く、多彩な救急症例も経験できます。気管支鏡検査やカンファレンス・回診などを呼吸器外科と共同で行っており、外科症例の手術参加も可能です。また、京都大学医学部附属病院へのカンファレンス参加、近隣施設との症例検討会などを通して知識を深めています。病診連携にも力を入れ、開業医の先生方を対象にした勉強会を定期的に行って信頼関係を築いています。

また、臨床研修病院として充実したプログラムを確立し学会発表や論文執筆にも取り組んでいます。サウンドスペクトログラムを用いた肺音研究にも力を入れており、2017 年にはノルウェーで開催された世界肺音学会で研究成果を発表しました。

さらに当科の特徴の一つに、看護師や理学療法士などの教育にも力を注いでいる点があります。2017 年度は東北大学の黒澤一教授をお招きして呼吸リハについての講演会を開催したり、滋賀医科大学の長尾大志先生とコラボして「Virtual Respiriology チーム医療」というクイズ形式の勉強会を企画したりして、院内外から多くのメディカルスタッフに参加いただきました。

このように多忙な業務内容ではありますが、土日祝日の病棟対応を当番制にして完全に仕事から離れる時間を交代に確保できるようにしています。今後スタッフの数が充足すればチーム制の導入を予定しています。

このように、臨床と研究を両立させ、ワークライフバランスの取れた職場を目指しています。興味のある方はぜひお問合せ下さい。



「Virtual Respiriology チーム医療」のワンシーン